令和５年度 知床博物館特別展

斜里平野の魅力

－人と自然による景観形成の歴史－

特別展通信　Vol.4
R5(2023).8.1
斜里町立知床博物館

知床博物館 特別展

と　き　9月23日(土)～12月17日(日)

ところ　知床博物館 交流記念館ロビー

博物館では斜里平野の人と自然の営みに注目した特別展を開催します。今回の通信では、斜里平野の農地にとって大規模な基盤整備の始まりともいえる、昭和に入ってからの河川の大改修(切替え)や大規模排水路整備などについてご紹介します。

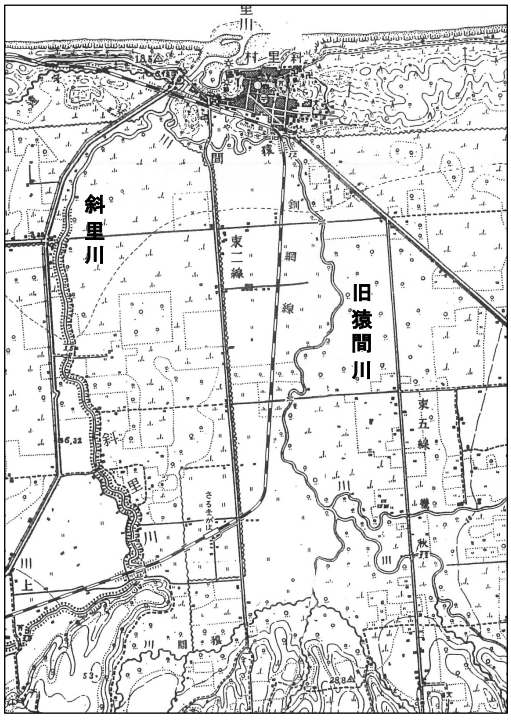
昭和22年の市街地（〇が現斜里中学校）

11 猿間川の切替え

斜里川と猿間川は、明治31年(1898)の殖民地開放当時は低湿地だった豊倉から中斜里にかけての原野を蛇行しながら北流していました。猿間川は幾品川や秋の川と合流して(仮称:三川[さんせん]合流点)、釧網線の東側を流れて市街地に達し、斜里中学校の北側を蛇行して斜里高校付近で斜里川に合流していたのです。

しかし、昭和17-28年(1942-1953)にかけての猿間川の切替えによって、「三川合流点」から斜里川に向かって新たに直線的な流路が掘削され(下図の「新猿間川」)、旧猿間川は「豊倉東4線排水路」と「東1号排水路」になりました。

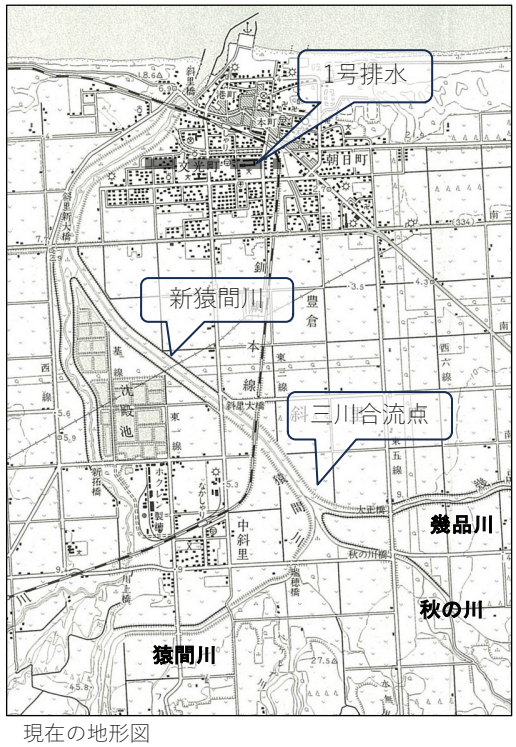
これによって豊倉の低湿地の農地が改良され、市街地付近を蛇行していた猿間川は直線的な通称「１号排水」に姿を変えていったのです。



大正13年測量の地形図

約100年間

現在の中斜里駅は昭和4-25年は「猿間川駅」



現在の地形図

12 農地の拡大と排水

大正時代の斜里は木材景気やエンドウ豆などの高騰による「雑穀景気」に沸きました。また、大正末頃からは稲作も行われましたが冷害などにより昭和8年を境に減少します。

低湿地の農地には客土や排水が欠かせません。昭和10-20年代(1935-1945)には食糧増産のための農地拡大政策の下で前出の猿間川をはじめ、奥藥別川、宇遠別川、飽寒別川の流路切替と排水路整備などの大事業が行われました。

13 奥藥別川切替え

奥藥別川は朱円集落の西側を北に流れて、砂丘付近で旧飽寒別川と海別川を合流し、さらに砂丘間を東に流れて東7線の北側で海に注いでいましたが、昭和22-23年(1947-1948)の切替えにより東２線付近から排水路が掘削されました。＊右下図参照

14 宇遠別川切替え

かつての濤釣沼の東側には大湿地帯が広がり、旧宇遠別川は砂丘の南側を東に流れて斜里川に注いでいました。

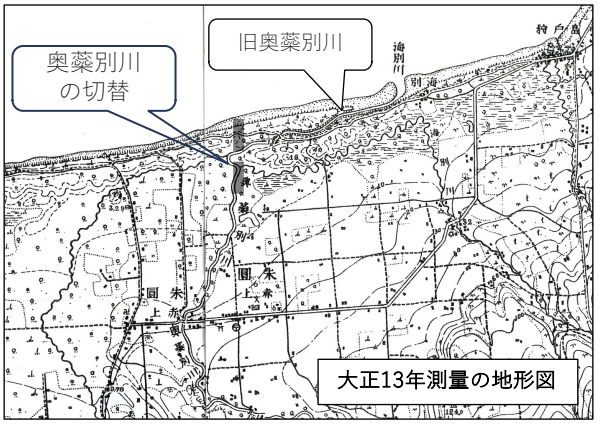
昭和25-29年に農地化のために川の切替えと海への排水路などが掘削されました。＊下図参照

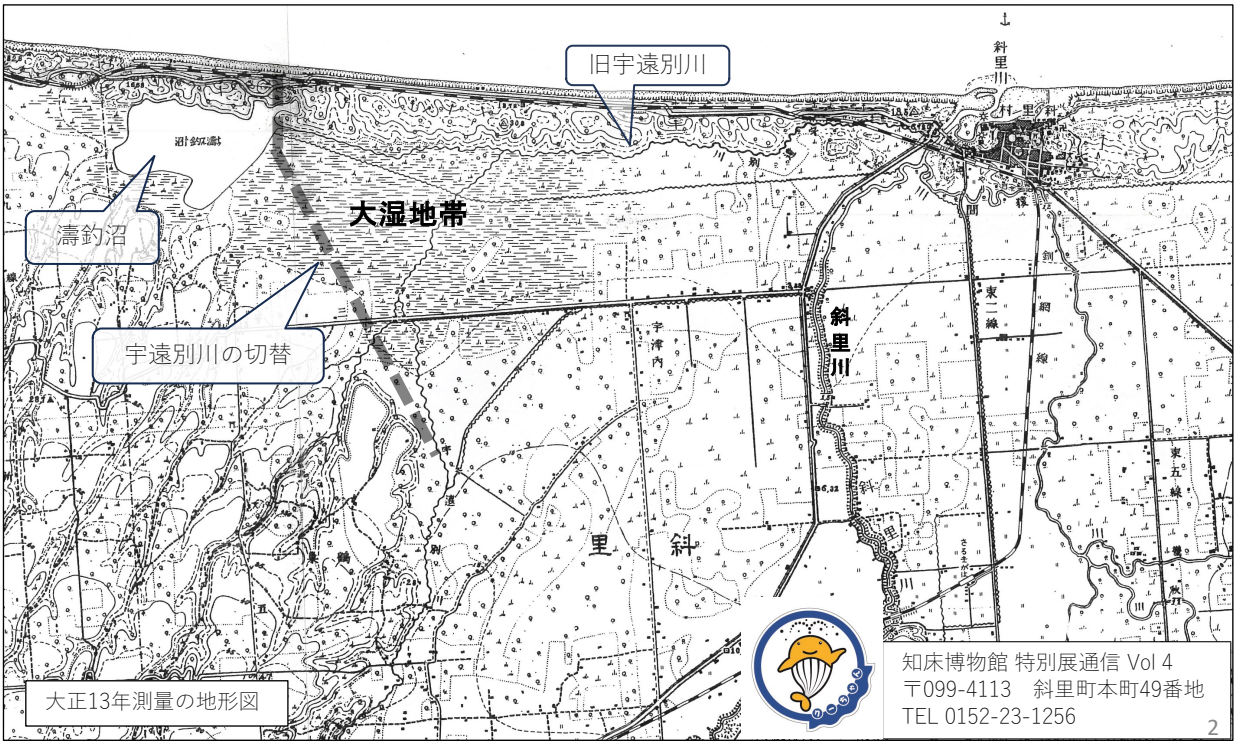
市街地から西4線(手前)への飽寒別排水路

15 飽寒別川切替え

旧飽寒別川は越川から根室街道沿いに流れて奥藥別川に注いでいました。

現在は川としての存在感は薄れていますが、昭和27-29年(1952-1954)に1号と西4線付近で市街地側からの排水と合流して海に注ぐ排水路が掘削されました。*上写真





知床博物館 特別展通信 Vol 4
〒099-4113　斜里町本町49番地
TEL 0152-23-1256